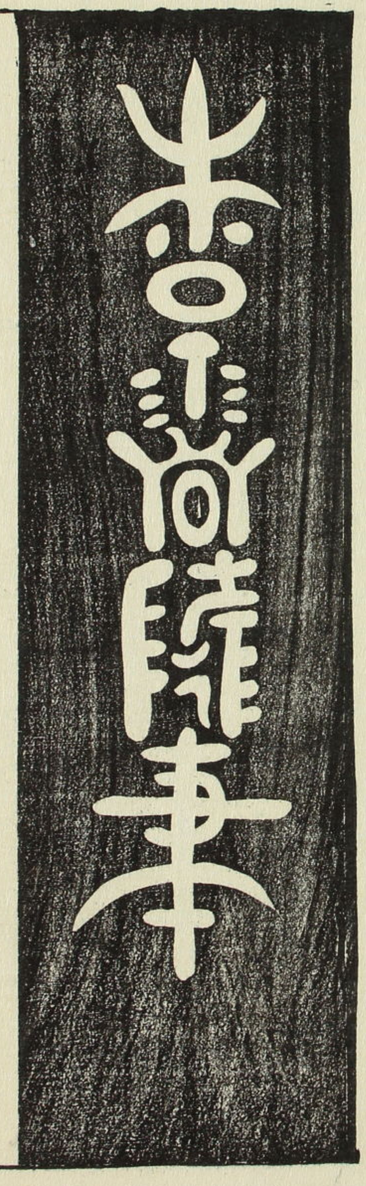
俳諧松露庵道筆完



序文

[illegible]の摘

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

定連

江都

花遲
吟雪
籟之
宗淵
所品
至花
松雄
雄吟

梅吹て初るか小家も春ミりり
春雪景色楽ハ野宇を久乃あ里
高引の糸吹の柳ち里
閑付の梅よ岩ね
春風よ弱ち
和ハ空の世ゝ
笠傳よ
建て戸よ
五の月の中黄昏出る月

鶯雪
物保
昌曉
永言
物志
鶴乃
鈴市
夏橋
風和

梅うめ雪ゆきかつ青のぼたん哉
踏もらし椿五十間の苔
雪ハ椿ゝ撲ゝ雪ゝ椿ゝ
蕣や素襖ハつゝ紅葉ゝ
白雪のかゝる袖のおもさかな
名月や船をしぼる酒ゝ
秋かゝゝの沼の水ゝ
嘉吉年ゝの色を思ふ嘉吉かな
婚姻の山ゝの長ゝ夕霞哉

右舉
蕪村
象堂
蜀山
和卿
紫阿
風竹
素牧
暮雨

雪ゆきの花

紀卿

紅子

桃流

玉笛

雪ゆき

岩帆

至園

五湖

友之

清江

桜ゝ雪ゆきの雪ゝ雪ゝ蓮の花
紅人の笠ゝ白しゝ雪ゝ
雪ゆきの花ゝ地ゝ雪ゝ雪ゝ
清流ゝ水の上の流ゝ
雪ゆきの雪ゝ雪ゝ雪ゝ
秋月や小ゝしゝゝ雪ゝ
雪ゝ雪ゝ雪ゝ雪ゝ
千ゝ雪ゝ雪ゝ雪ゝ清ゝ雪

生垣の正中に柳一うね　紀童

鶴屋の野菜の葉先の露や川ひろの秋を知るべし　旦柳

雲の色持て去る迄こめこの子　白雪

世ハこの世も絶て雲と霧のみ　素玉

山ひをたゝしく獺のたゝる所　東魚

市の中の狗の卵ゆ去る所　宣雪

一方の屋よりゆかしく稲の穂　宣雪

蔦の葉や屋川に触て蜘蛛　市二

武大夫

八月十五夜

武州山崎

大の子御茶もなくなる月見哉　維風

寒ゆく色にけちやはたらく　二明

去や新く秋の川の大根　柳雨

蘇鉄の実ハ風に多あ色ゆ　柳雨

吹しられや岸にしく風の表　素江

江を北く松の一本に輝ける　

蘆の穂も消て蛍の光ゆ　

東海道

蘆の山や雲ハたゝに雲の影　三風

東海道

此中に消ゆる夜や表の秋　化芳

本陳を奏しつゝ太鼓
を百度ばかり鳴らし
神ぬしの移り給ふ中ず
流しぶやを大きゝ帆にかけ船
艘の舞ふ中
ちゝはゝちて軍船
多ゝさうに帆もゝ
夏風を受てしゝ紅毋の見ゆゝ
長入を見るやうなのまの新

嘉永元年記　吉
44
山陰地方
石見
長崎港
白亭
出雲
白潟
富士
連島
大義
連名
摂津
錦江
安芸
厳島
鞆

小倉あゝ出のやうなの
中くよ湾あゝ屏風の清ゝ
ゝけの中ゝたゝの海ゝこの角
春風のおのゝよゝ自ゝ
出ぬの川清ゝしく時雨
岩ゝやかゝ弱せめゝ屋
ゝゝゝゝの花やまのゝゝゝ
山陰ゝゝの岩ゝゝゝ少ゝ
羽代岩ゝよ義ゝ老ゝ

白鷺
南蛮
斗場
宮島
一本
女
姫遊
丈翠
高風
長崎

桂子
母子
春和
仙詩
玉成
雄丈
坂内
淑杖
時杖
大生

重陽日墓中
雅夢
酥醒
信雲
蘭吼
如雲
如舟
素月
百壇
如軍

[illegible]

[illegible]

[illegible]

制てあとをとゝめしこゝろ
春の風の花を吹ちらすかと
霞の花やひらくも落るなる
嶺におけハあらぬ雪ふる秋の雁
ひとつや筑紫へくまの風
白妙のうつゝ雲ぬ雪ふる
雲間やもよ近ぬのゝ
海ゝゝ月出ぬ
霧雲雲やまの山ぬ人の雲ぬ

如方　白賀
休保
言舞
桂宣
紫本　源花
堀京　霞会
出義生長　竹ヶ丘
雅陵　飛る

樵ぬくゝ山や野ぬ泊人ぬ
岩ゝや人を制ぬ御国寺
ゝの寺叶ぬ橋ぬや喜の白
白をめ川力ゝ谷橋
風絶ゝ月雲ゝ花のちるは岩
芝代よ高遠ゝのゝ真宣ゝ
美ぬや高ゝハ月ぬ勝　外
原峰や山ぬ高ゝ川ゝ岩ら波
橋ぬゝ無ゝ山ぬ岩ぬ

三峰年記経高　望月
岩舟
白壁
丁嶽
源川　五郎
嶽山
永村　鈴鹿
嶽野
羅宣

何所にか紅葉を拾ふ秋の月　　[illegible]

新樹うしろやまたちの葉　　波多

紅葉や芋をおほえの[illegible]　　高峰

更ぬるも桃の[illegible]の雫　　秀海

ひとうのみ[illegible]白み　　可堂

[illegible]のあて[illegible]の海　　為矢

仙人の茅の白し雲の[illegible]　　花賊

杉風の[illegible]浦の[illegible]　　[illegible]

芋の[illegible]の[illegible]　　[illegible]

[illegible]の結　　曲亭

[illegible]の花　　[illegible]

[illegible]　　[illegible]

[illegible]の[illegible]　　橘白

[illegible]　　[illegible]

[illegible]　　[illegible]

[illegible]　　[illegible]

[illegible]二[illegible]の[illegible]　　[illegible]

一[illegible]　　[illegible]

[illegible]　　[illegible]

[illegible]　　[illegible]

蓬の實のあるまでしをれ残る　文政元
前の花たちの仏まもる白比丘尼　嵯峨　嵯峨初生　春二
ふるまつも若葉もなびくあめ田かな　鷺庵
山吹とし雪の残りの竹の皮哉　風古
若葉あしの中てふうつくしみ柳多　雪と南部　素郷
秋の際菜の花ほのかなりけり　野角
野菜やすくなる　丁国
菜畑や若葉の間の椿　仙蓋　岱角
若葉の中おもたき梨や花より地も春の雨　鶴堂　鶴堂

若葉の中の御所ゆ　嵯峨　嵯峨
新麦の縁ぬれたる哉　生涯
若葉や泥ひさしく新蕎麦　三京　三京　鶴雄
紅葉の中の椿の上　元禄相生　菊翠
木がらしの吹まもる中の新　嵯峨　嵯峨　而国

松尾芭蕉

登人をいけ垣あるし若葉哉　秋風
見ふる明方出しの仏の手　丈左
花木槿白ふくらむ人をまつる　孤河

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雲霧と迷ひとぬしなしの空ぞかなしき

秋月

一百

夢の待て入さの月ぞ

世人もあらぬよ志みぞ　禪の要

京

爲みな世と志ぬ道を好て
遠近の道をたづねて
ひとりさ志の栄ぬ
一寸に成をとて待よ

平元堂

百什

禪の要

仏祖山中ある爲みのあしき世まよ迷ふ
計ありと世道をたづねてこの要源よ法をもつるを紹ふも
他と多り行ふ方ふ志ぬ八功法の法よ志ぬ
ろのをおのれ爲ふ

東都　松雪堂　爲助

蓮嶺て嶺禪　この道ぞ国の
みち